

コミュニケーション手段としての伝言板に関する研究^{*1}

——メッセージの特徴分析からみた現代における利用のされ方(その1)——

二 宮 昭

A Functional Analysis of Messages Written on Message Boards in Stations (I)

Akira Ninomiya

目 的

伝言板は古くから鉄道の駅などに設置され、誰もが自由に利用できるコミュニケーションの手段として用いられてきた。この伝言板に関する記事が、昨年末から今年はじめにかけて2つの新聞に出ている。

まず、1996年12月5日の読売新聞『次々姿消す駅の伝言板—利用者へ いたずら書きばかりなので撤去します 鉄道会社』という記事では、伝言板が最近では若者たちのいたずら書きの場と化し、撤去する駅が出てきている、ということが、東京周辺での現象としてまとめられている。また、1997年1月21日の朝日新聞にも『駅の伝言板要る? 要らぬ? JR「美観損ねる」と撤去へ 名古屋地下鉄全駅設置「利用者いる」』ということで、名古屋周辺でもいたずら書きが増え、本来の待ち合わせの役割が薄まってきていること、JRがそれを理由に撤去をすすめる一方で、名古屋市営地下鉄では、利用者がある限りなくすわけにはいかないと全駅に設置するなど、事業者によって対応が様々である、という記事が掲載された。そして、どちらの記事も、携帯電話やポケットベルが普及し、伝言板本来の役割が薄まったきたためにいたずら書きが増えてきたとしている。こうした新聞記事が出るということは、伝言板が現在大きな変換点を迎えていることを物語っているといえるだろう。

伝言板の本来の役目は、待ち合わせの約束に遅れてきた者に「先に行く」「～で待つ」ということを伝えることであり、そのため、そこに書かれるメッセージもそれに応じた一定のパターンをもっていたといえる。しかし、井上(1993)によると、最近では若者を中心に本来の役目とは異なる目的で利用され、そこに書かれるメッセージも非常に多様な表現がみられるようになってきているという。では、一体若者がどのような目的で利用しているのか、新聞記事にあるよ

*1 本研究は1996年度愛知淑徳短期大学学術研究助成・研究奨励費の助成を受けて行われた。

うにいたずら書きばかりなのか、というようなことに関して組織的に研究されたものはほとんどみあたらない。

そこで本研究では、伝言板に書かれたメッセージを収集し、とくに発信者・相手の記入ということと、メッセージのコミュニケーション上の機能という2点から分析し、それを通して現代において伝言板がコミュニケーション手段としてどのように利用され、どのような意義をもっているのかを明らかにすることを目的とする。

方 法

1. メッセージの収集を行った伝言板および収集期間

名古屋市の地下鉄東山線星ヶ丘駅東および中改札口（以下、星ヶ丘と記す）、なごや駅中および北改札口（なごや）、栄駅西・中および東改札口（栄）に設置された7つの伝言板について、1996年7月24日から1997年1月31日まで、週2～4回ずつ定期的にメッセージの収集を行った。また、地下鉄東山線千種駅と藤が丘駅（その他）の伝言板からは不定期にメッセージを収集した。星ヶ丘では午前9時ごろ、それ以外の地点では午後16時～19時ごろを中心に収集した。

2. 収集手続き

メッセージの書かれた伝言板をデジタルカメラ（リコー DC-2L）で撮影し、それをテレビで再生して各メッセージを文字化した。文字化に際しては、誤字脱字等も訂正せずに、できる限り原文のままとするようにした。イラストについては、イラストだけのものは収集の対象から除外し、文章中にイラストが含まれているようなものは、どのようなイラストかという説明を文字で付け加えておいた。

収集されたメッセージ数は、星ヶ丘753、なごや319、栄149、その他60の総計1281である。

3. 分析方法

文字化された全てのメッセージについて、本研究では、1) 誰に対する（相手）誰から（発信者）のメッセージなのかが明記されているか、2) どのようなコミュニケーション機能をもっているのか、という2つの点から分析を行った。

1) 相手・発信者の記入の有無

相手・発信者ともに以下のように分類した。

- | | |
|-------|--------------|
| A. あり | 1. 特定の個人 |
| | 2. 特定の複数 |
| | 3. 不特定（団体など） |
| B. なし | |

C. 判別できないもの

Cの判別できないものとは、人名だけの列記（例：こずえ>まい>のりこ>かずみ）や、相手や発信者と思われる部分がほとんど消えているようなものである。

2) コミュニケーションの機能

林（1979）を基にし、それに伝言板というものの持つ性格を考慮して、以下のような分類を立てた。

A. 何らかの情報を伝達するもの (referential)

1. 発信者に関する情報の伝達

①先行したことの通知

例：まいちゃんへ 先行くね
皆様先に参ります BY あずさ・はづき

②所在の通知

例：うめへ 3番出口 ひろし
修ちゃん ゲーセン行ってる by まさし&まさひろ

③その他

例：るりこさんへ 8じごろ tel します まや
TO Sen 吹上に45分に着いた。from U

2. 発信者以外のことに関する情報の伝達

例：23日に國府田さんのCDが出るよ。by 唐の都の名前といえ
ば 35へ ○○○=オマエだった。02

B. 他者への働きかけをおこなうもの (conative)

1. 指示・命令や依頼

①「早く来い」

例：ゲマへ 早くこい by ハナジ
まいへ 遅れるな!!

②「～に来い」

例：空風くんへ 今日、忍さんとこに来てね。by 水蓮
池田君へ 大曾根行きのバスで光が丘でおろ

③その他

例：柏木へ ここに TEL しろ781-5264
杉山氏 あすスレイヤーズのLDをよろしく by たぬ

2. 激励・見舞い

例：東邦野球部がんばってネ ユカ
ようちゃんへ 早く元気になってね。なみ

3. 勧誘・同意の請求

例：さおりとまいえ プリクラ行かん？ 桜より

TO Gさんへ。また明日遊ばーね BY 颯

4. 質問

例：Gさんの本名「ゆうすけ」ですか？

小太 テストは明日まで？美弥

C. 発信者の感情や考えの自己表出 (emotive)

1. 感情・感覚の直接表現

①遅れた相手の非難

例：あっちゃん おそいゾ！圭こもだ。

井伊え もう。まっけたのにー BY M

②その他

例：しんじのばか

宮ちゃん、愛してるよ BY えみこ

2. 欲求の表出

例：けんちゃん 早く映画行きたあーい ㊟

たかひとくん会いたい。ゆっこ

3. 感想・意見の表出

例：ちあきさんへ きのうの演説よかったよ

花形様サイコー 美剣花形3000GT カッコイー

D. 社会的関係に関するもの (phatic)

1. 挨拶

例：いそちゃん&マキコプー おはよう。by ひろ

のむへ さようなら

2. 感謝・謝罪

例：もぐらへ 昨日はありがとう

アキオへ。今日ごめんね by ビーナッツ

E. 意味不明・その他

このコミュニケーション機能の分類は、主としてメッセージの表現形態に基づいてどの分類項目に属するかを決定した。従って、例えば「～にいる」というメッセージは、発信者の所在を通知するだけでなく、そこに来るようにという指示も含んだものとみなすこともできるが、ここでは「～に來い」というはっきりと指示を示す表現形態のものとは区別するようにした。

ただし、「バイバイ」「さようなら」については、それが単独で使われているものはD1の「挨拶」とし、「先にバイバイ」というように先行したことが少しでも示されているものはA1①「先

行したことの通知」に分類した。

また、メッセージが2つ以上の文章で構成され、各々が違った機能をもつ場合や、1つの文章であっても複数の機能をもつような場合は、次のような手続きによって、主分類項目と副分類項目とを決めた。

- 1) A 1①, A 1②, C 1①, B 1①, B 1②が含まれる場合は、この順番に主分類の項目を決定し、それ以外の項目は副分類とする*¹
- 2) D 1, D 2は常に最も下位の副分類項目とする。
- 3) それ以外は、メッセージの最初の文章の機能を主分類とする。

例：れい ごめんね先きます。図書館にいます

主分類=A 1①, 副分類=A 1②・D 2

アッコへ おそいよ, ちこく 図書館にてまつ ゆきより

主分類=A 1②, 副分類=C 1

まゆみ まどか おハヨウ スマン 朝練いく。by まい

主分類=A 1③, 副分類=D 1, D 2

ほのへ LUNASEA の記事&アクセスのテープ家にもってきて。今日本山行くねー
ばーい BY 涼

主分類=B 1③, 副分類=A 1②, D 1

結 果

1. 相手・発信者の記入

相手・発信者の両方とも、もしくはどちらか一方が判別できないメッセージは、星ヶ丘=19, なごや=6, 栄=3, その他=1であった。それらを除いたメッセージについて、相手と発信者の両方ともが記入されているもの、相手だけ記入されているもの、発信者だけ記入されているもの、どちらも記入されていないもの、に分けたのが図1である。

全体としては、相手も発信者も記入されているものが56.31%, 相手のみの記入が19.65%, 発信者のみの記入が10.94%であり、メッセージの90%近くは少なくとも相手か発信者の記入がされていた。ただし、場所による違いが大きく、星ヶ丘ではどちらも記入が70.16%を占め、どちらも記入されていないものは2.72%に過ぎないのに対して、他の3つの場所では、どちらも記入は35.46~45.76%と星ヶ丘の半分くらいであり、どちらも記入なしは20.34~32.88%もみられることが示された。

*¹ 例外として、「~にいる。遅かったら先に行く」というかたちのメッセージはA 1②を主分類, A 1①を副分類とした。

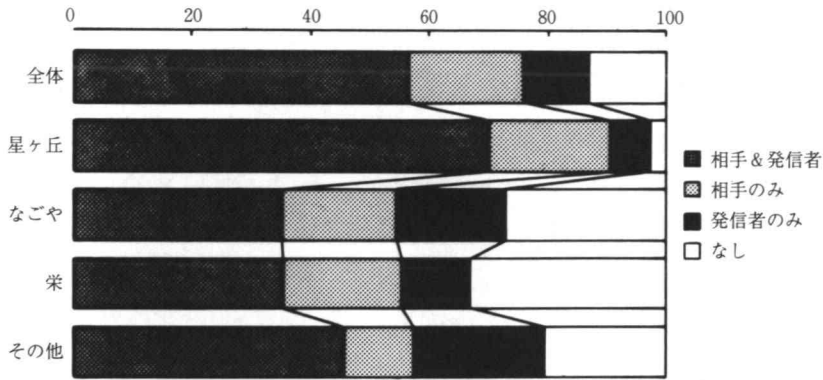


図1 相手・発信者の記入率

記入された相手の内訳については、特定の個人というものがどの場所においても記入された相手の75%以上を占め、最も多かった。相手が特定の複数というものはずっと少なく、星ヶ丘以外では大体1割以下に過ぎなかったが、星ヶ丘では、23.55%と他の場所に比べるとかなり多くみられた。不特定は星ヶ丘・その他では1%にもみたくないが、なごや・栄では、「林原フエンのみんなへ セイバーのCDでるね (10/23) あたし金欠でかえないかも by R. S (田谷)」や「皆様元気ですか? 名駅OFFのみなさま 試けん明けまではたぶん走れんでしょう G」

表1 相手記入の内訳

	特定の個人	特定の複数	不特定	計
全 体	750 (78.21)	186 (19.40)	23 (2.40)	959
星ヶ丘	507 (75.56)	158 (23.55)	6 (0.89)	671
なごや	142 (83.04)	17 (9.94)	12 (7.02)	171
栄	68 (82.93)	9 (10.98)	5 (6.10)	82
その他	33 (94.29)	2 (5.71)	0	35

() は%

表2 発信者記入の内訳

	特定の個人	特定の複数	不特定	計
全 体	667 (78.93)	165 (19.53)	13 (1.54)	845
星ヶ丘	422 (74.43)	135 (23.81)	10 (1.76)	567
なごや	153 (90.53)	15 (8.88)	1 (0.59)	169
栄	57 (82.61)	10 (14.49)	2 (2.90)	69
その他	35 (87.50)	5 (12.50)	0	40

() は%

のような、あるグループを相手としたようなものが6～7%と少なからずみられている(表1)。

発信者も相手と同様に、やはり特定の個人がどの場所でも多く、星ヶ丘では特定の複数の割合が若干高かった。発信者が不特定というものはどの場所も非常に少なかった(表2)。

表現上の特徴として目についたのは、以下のような点であった。

- 1) 相手を示すときに to~, 発信者を示すときに by~や from~という表し方が多くみられる。
- 2) フルネームおよび姓だけというものは少なく、大半が名(セカンドネーム)もしくは愛称である。
- 3) 「ハルナ◎へ」のように、~ちゃんを◎で表すことが多い。
- 4) 「[4 先行くネ 34 915 02]」のように数字表記もみられる。

2. コミュニケーション機能からみた伝言板のメッセージ

各メッセージを、A=何らかの情報を伝達しようとするもの(referential)、B=他者への働きかけをおこなうもの(conative)、C=発信者の感情や考えの自己表出(emotive)、D=社会的関係に関するもの(phatic)、E=意味不明・その他の5つの機能に分類したものが図2である。複数の機能をもつメッセージについては、主分類の項目がどの機能をもつかで分類した。

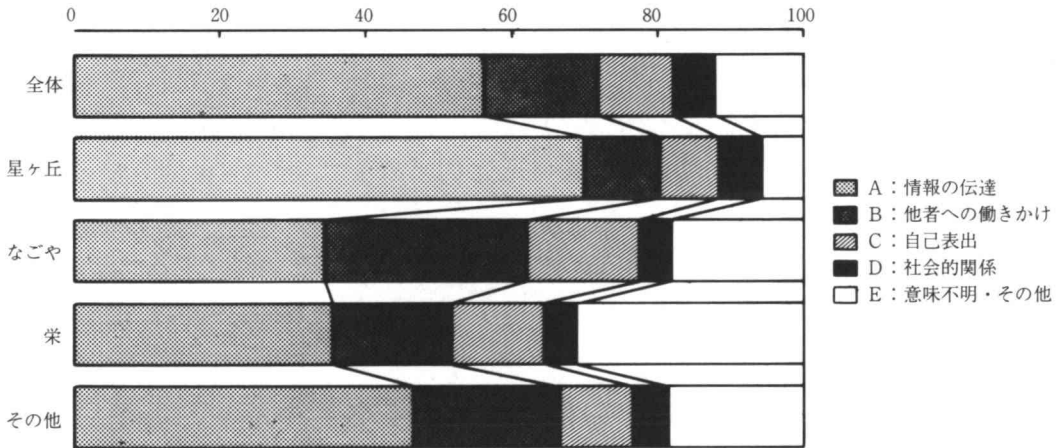


図2 メッセージのコミュニケーション機能別分類

全体としてはAが半分強を占めて最も多く、B、C、Eが1～1割5分程度、Dは1割以下の割合であった。ただし、これも場所による違いが大きく、星ヶ丘はAが70.12%と非常に多いのに対して、他の3つの場所では、ずっと少なく、なごやや栄では星ヶ丘の約半分の割合にしか過ぎなかった。また星ヶ丘では、Dが他の場所より多く、B、C、Eはずっと少なかった。星ヶ丘以外の3つの場所は、大体似たような割合であるが、なごやではBとCが他の場所より多く、栄ではEが多いということが示された。

Aをさらに下位の項目に分類すると、星ヶ丘では8割以上がA1①=先行したことの通知であり、それ以外はどれも1割以下で、ことにA2=発信者以外のことに関する情報の伝達は2.84%しかみられなかった。星ヶ丘以外の3つの場所では、A1①はずっと少なくなり、A1②=所在の通知やA1③=A1①・②以外の発信者に関する情報の伝達が多くみられ、A2も1割程度みられた。なかでもなごやではA1③が半数近くみられており、柴ではA1②の割合が高いという結果が得られた(表3)。

Bの下位分類では、B1③=「早く来い」「～に来い」以外の指示・命令や依頼が全体的には多くみられ、星ヶ丘以外の場所でとくにその傾向が強かった。星ヶ丘ではB1①=「早く来い」やB4=質問が他の場所より多かった(表4)。

Cの下位分類では、「～のバカヤロー」や「～さん好きよ」というようなC1②に分類されるようなものはどの場所でもある程度みられているが、C1①=遅れた相手の非難は星ヶ丘だけに多くみられた。また、もともと数そのものはそう多くないが、C2=欲求の表出やC3=感想・意見の表出はなごやでよくみられている(表5)。

Dについては、D1=挨拶が星ヶ丘で多くみられた(表6)。

表3 A. 何らかの情報を伝達するもの(referential)の下位分類

	A1①	A1②	A1③	A2	計
全体	495 (68.94)	76 (10.58)	110 (15.32)	37 (5.15)	718
星ヶ丘	438 (82.95)	36 (6.82)	39 (7.39)	15 (2.84)	528
なごや	25 (22.94)	19 (17.43)	52 (47.71)	13 (11.93)	109
柴	18 (33.96)	17 (32.08)	11 (20.75)	7 (13.21)	53
その他	14 (50.00)	4 (14.29)	8 (28.57)	2 (7.14)	28

A1①=先行したことの通知 A1②=所在の通知 ()は%
 A1③=A1①・②以外の発信者に関する情報の伝達
 A2=発信者以外のことに関する情報の伝達

表4 B. 他者への働きかけをおこなうもの(conative)の下位分類

	B1①	B1②	B1③	B2	B3	B4	計
全体	23 (11.50)	20 (10.00)	88 (44.00)	14 (7.00)	20 (10.00)	35 (17.50)	200
星ヶ丘	15 (20.00)	6 (8.00)	14 (18.67)	4 (5.33)	11 (14.67)	25 (33.33)	75
なごや	4 (4.49)	7 (7.87)	52 (58.43)	8 (8.99)	9 (10.11)	9 (10.11)	89
柴	4 (16.67)	3 (12.50)	15 (62.50)	2 (8.33)	0	0	24
その他	0	4 (33.33)	7 (58.33)	0	0	1 (8.33)	12

B1①=「早く来い」 B1②=「～に来い」 B1③=①②以外の指示や依頼 ()は%
 B2=激励・見舞い B3=勧誘・同意の請求 B4=質問

表5 C. 発信者の感情や考えの自己表出 (emotive) の下位分類

	C 1 ①	C 1 ②	C 2	C 3	計
全 体	37 (27. 21)	69 (50. 74)	10 (7. 35)	20 (14. 71)	136
星ヶ丘	32 (51. 61)	22 (35. 48)	0	8 (12. 90)	62
なごや	3 (6. 12)	29 (59. 18)	7 (14. 29)	10 (20. 41)	49
栄	2 (10. 53)	14 (73. 68)	2 (10. 53)	1 (5. 26)	19
その他	0	4 (66. 67)	1 (16. 67)	1 (16. 67)	6

C 1 ①=遅れた相手の非難 C 1 ②=①以外の感情・感覚の表出 () は%
 C 2=欲求の表出 C 3=感想・意見の表出

表6 D. 社会的関係に関するもの (phatic) の下位分類

	D 1 =挨拶	D 2 =感謝・謝罪	計
全 体	50 (69. 44)	22 (30. 56)	72
星ヶ丘	35 (74. 47)	12 (25. 53)	47
なごや	8 (53. 33)	7 (46. 67)	15
栄	5 (71. 43)	2 (28. 57)	7
その他	2 (66. 67)	1 (33. 33)	3

() は%

表7 待ち合わせに関するメッセージの割合

	待ち合わせ	待ち合わせ以外	計
全 体	651 (50. 82)	630 (49. 18)	1281
星ヶ丘	527 (69. 99)	226 (30. 01)	753
なごや	58 (18. 18)	261 (81. 82)	319
栄	44 (29. 53)	105 (70. 47)	149
その他	22 (36. 67)	38 (63. 33)	60

待ち合わせ=A1①・A1②・B1①・B1②・C1① () は%

このコミュニケーション機能の分類において、A 1 ①・A 1 ②・B 1 ①・B 1 ②・C 1 ①は待ち合わせに関するものとみなすことができよう。そこで、それらの項目に含まれるメッセージと、それ以外の項目に含まれるメッセージとに分けてみると、星ヶ丘では待ち合わせに関するものがそうでないものの2倍以上であるのに、他の3つの場所では待ち合わせに関するものの方がずっと少ないことが示された(表7)。

今回は文体や書体など表現上の特徴についての分析は行っていないが、「おそいゾ!! 先行

くネー」のように、ほとんどのメッセージが会話調であり、しかもカタカナや!!などの記号を混在させたものが多かった。また、「10310 [086- (テストがんばろーの意だと思われる)」のような数字表記や「(´・`)」のようなフェイスマークなども使われていた。

また、1996年11月28日(木)と12月9日(月)に地下鉄東山線星ヶ丘、なごや、栄、桜通線桜山の各駅で伝言板の利用実態観察調査を行ったところ、利用者のほとんどは高校生であり、それも女子が多いことが分かった。

考 察

伝言板は誰もが自由に利用できるものである。そのため、そこに書かれるメッセージは誰に宛てた誰からのものかを明らかにしておくことが基本的には必要だといえよう。しかしながら、星ヶ丘以外の場所ではメッセージの2~3割が相手も発信者も記入のないものであった。

また、伝言板の本来の役目から考えると、そこに書かれたメッセージは、今回の分類でいえばA=何らかの情報を伝達しようとするもの(referential)の機能を持ち、なかでも「先に行く」というA1①=先行したことの通知か、「~で待つ」というA1②=所在の通知にほとんどが属するはずである。しかし、これも星ヶ丘を除いて、情報伝達以外の機能を持つメッセージがかなりみられ、情報伝達であってもA1③=A1①・②以外の発信者に関する情報の伝達やA2=発信者以外のことに関する情報の伝達の占める割合が高いという結果が得られた。

さらに、「先に行く」「~で待つ」に「早く来い」なども加えて、待ち合わせに関するメッセージとそうでないメッセージに分けて比較したところ、星ヶ丘以外の場所では待ち合わせに関するものの方がずっと少ないという結果が得られた。

このようなことから、場所による違いがかなり大きいですが、全般的に現代では伝言板は本来の待ち合わせとは異なる使われ方がされるようになってきているといえるだろう。

では、どのような使われ方がされているのだろうか。新聞記事によれば、伝言板に書かれているものは、ほとんどがいたずら書きだということである。たとえ、「~へ、先に行く、~」というメッセージでも、本当に誰かに先に行ったことを知らせたものか、単にふざけて書いたものかは区別できず、いたずら書きかどうかの判断は非常に困難であるが、相手も発信者も記入のないものや、機能分類でE=意味不明・その他に含まれるものは、やはりいたずら書きとみなされよう。そして、今回収集したメッセージでも、そのようないたずら書きが多かったことも確かである。

しかし、例えばなごやでは、A1③やA2などがかなり多かったが、その中には、以下に示すような、落書きというよりも従来の待ち合わせとは異なる伝言板の使い方といえるようなものがみられている。

「TO 渋谷さん 今日、例の件で事務所に行きます。By 水蓮」…A1③

「〈新規〉「明朝のこと」朝に化学の追試るので寄らない可能性大です。そういうわけで> ALL 柗の free [もしくは fan] の方々へ by 柗黄石」…A 1 ③

「至急!! 9/23 (月) シャ乱Qコンサートのチケット2枚あまっています。ほしい人はベル (052) 354-7157に TEL ばんを入れてネ」…A 2, B 1 ③

「唐の都くんへ Pure 来週の月曜日に貸して下さい by 柗」…B 1 ③

このように、待ち合わせという枠にとらわれない情報の伝達や、他者への働きかけなどが行われているわけだが、その内容は発信者・相手にとって極めて身近な話題や出来事であり、しかも、それが身辺報告風の会話調で書かれていることからみると、「仲間との接触・談話の場」として伝言板を利用しているといえるのでないだろうか。

こうした「仲間との接触・談話の場」としての伝言板の利用は、星ヶ丘でもみられている。星ヶ丘では相手・発信者の記入率も高く、「先に行く」「～で待つ」というメッセージが多くみられていることから、待ち合わせという伝言板本来の利用の仕方がなされているように思われる。しかし、星ヶ丘では、D=社会的関係に関するもの (phatic) に分類されるものも少なからずみられている。この phatic な機能は相手とよい関係を保つためのものであり、伝言板には本来必要のないはずの機能である。そして、「先に行く」「～で待つ」に分類されたメッセージでも、「おはよう、先行くね」というように、副分類にDを含むものが多く、「先に行く」「～で待つ」も純粋な意味での待ち合わせというよりは、相手への親密感を表明するためのものと解することができよう。「早く来い」というようなB 1 ①や「おそいぞ」というようなC 1 ①が多くみられることも、親密感を強調するために逆にぞんざいな表現をとっているためだとみなされる。このような親密感の表明もやはり「仲間との接触・談話の場」としての伝言板の利用の仕方の1つといえるだろう。

利用実態観察調査から、伝言板を利用しているのは、ほとんどが女子を主とする高校生であることが示された。現代の若者が仲間との接触・談話の手段として現在盛んに利用しているものとして、ポケットベルや携帯電話、パソコン通信などが挙げられるが、伝言板を利用している高校生もそれらと同じようなものとして伝言板を利用していることは、ポケットベルに使われる数字表記やパソコン通信で使われるフェイスマークまでもがメッセージに登場していることからもうかがえる。逆に言えば、高校生が伝言板をよく利用するというのは、ポケットベルや携帯電話などが彼らの年代にもかなり普及してきたといえ、まだ大学生などに比べるとそれらの機器を個人的に所有する経済的余裕もないため、本当はそれらを使いたいのだが、仕方なく最も安価（無料!!）で手軽な伝言板を利用しているといえるかもしれない。栄で機能分類のE=意味不明・その他といういわゆる落書きが多いのは、星ヶ丘やなごやに比べて、栄では高校生が伝言板を利用する環境でないため、「仲間との接触・談話の場」として伝言板が利用されにくいからだといえよう。

現代においては、伝言板は本来の待ち合わせという利用のされ方は少なくなってきたことは確かである。しかし、だからといって新聞記事にあるように、ほとんどがいたずら書きば

かりだと断定することはできないのではないだろうか。むしろ、高校生を中心にポケットベルや携帯電話などと同じような発想で伝言板を捉え、「仲間との接触・談話の場」として利用するという、新たな利用形態・価値が伝言板にみられるようになってきているとみなした方がよいのではないかと思われる。

文 献

- 井上ひさし 1993 伝言板の研究 ニホン語日記 分藝春秋
林 四郎 1979 言語行動概観 南不二男編 講座言語第3巻 言語と行動 大修館書店 67-98